

主の公現の説教

金 大烈 神父 2009年1月4日(日)

《主の公現》

おはようございます。

今日は『主の公現の祝日』です。公現とは簡単に説明すると公に現すと言うことですが、何を現すことでしょうか？それは、救い主がこの世にあなたがたの為に來られたことを示す事です。

今日の福音(マタイ 2・1-12)で目立った登場人物が幾人かいるんですが、まず東の方から來た3人の博士、そしてヘロデ王です。

ヘロデ王から始めてみましょうか。この世の中にはヘロデの役をしている人々がいます。それはいわゆる悪役です。私達が何かいい事をしようとするれば反対につまづかせようとする何かが見れる場合が結構あります。そしてそのような人もいます。これはいいことですから一緒にしましょうと誘ってもあまり考えないで、反射的に "いいえ、それは良くないです" と拒む人がいます。

お願いしたいことは、絶対にヘロデの役は避けていただきたいことです。それは自分では絶対ヘロデのような者にはならないと思っけていても、私を含めて全ての人々がヘロデの立場に立つ場合がかなりあるからです。ヘロデはイエス様が生まれた事や三人の博士が逃げた事がわかって何をしようか？その時にベツレヘムで生まれた罪のない赤ちゃんを全員殺してしまいました。その原因は何だったのでしょうか？なぜヘロデはそんなに怒って子供達を殺さなければならなかったのでしょうか？大きい理由ではありません。ただのねたみです。自分が王なのに他の王が生まれる事はありえないという理由で沢山の子供達を殺したのです。

人間が罪を犯す時に大きい理由があって罪を犯すことは普通ありません。大体、自分の感情をコントロール出来なくて否定的な感情を持ってしまい何でもない事で人を傷つけます。皆様、率直に申し上げると、私の中にもヘロデの顔が見えます。そして皆様の中にもヘロデの顔があると思います。これを克服することが出来なかったら、いつも私達は失敗して間違えばかりの不幸な人生を送る事になるでしょう。この福音を通してもう一度考えてみましょう。もし自分の中にヘロデの心が生じたら「主よ、どうかこのヘロデの心を抑えて下さい。」と祈りましょう。主の助けがなければ、私達はヘロデの姿について行ってしまう可能性があるのを意識すべきだと思います。

二番目は、星を見て三人の博士はベツレヘムにやって來ました。少し星の話をして見ましょうか。星って、その星がきれいに見える為の条件があります。星はいつもあります。昼間でも真夜中にもあります。ただ、明るい昼間や電気の沢山点いた明るい夜の繁華街では星を見たくても光のために見えないことだけです。山の奥に行けば行くほどものすごくきれいに星が見えます。このように、いろいろな苦労や心配がない時には、星を見ようとする心さえ生じないのが当たり前かもしれません。そして星を見ようとしてもあまり見えません。ですから、自分の今の難しい状況を感謝して下さい。なぜなら痛みの中こそ、星が見えるからです。今、話している星は神様のことを意味するのをご存知だと思います。私達の人生はいろいろな難しさがあります。それを無駄に送らないように気をつけましょう。皆さんが困難や逃げてしまいたい事にぶつかった時はまず見上げて下さい。見上げなかったら星は絶対見えません。その星を見る為に私達は頭をあげ、上を見る必要があるのです。見上げるのは結局祈ることだと思います。きちんと星を見なければならぬ事も今日の一つのメッセージです。

三番目の話に入ります。重なる話になると思いますが、皆様は星を持っていますか？星は何を象徴しますか？簡単に言いますと『希望』です。それは絶対に色・味が変わらない希望の星です。その星をテーマにします。私は星を持っていると言う方は手を挙げて下さいませんか。手を挙げていない他の方は希望がないと言う事でしょうか？自信を持って自分の希望を話せる方がいらっしゃいますか？

もう一回質問します。「お持ちの星はありますか？」「何処にありますか？そして希望は待つものでしょうか？」カトリック信者が持たなくてはならない希望と言うものは待つものではありません。それはすでに与えられているものです。星が見つかったように、すでに主から皆様の心の中に与えられた星を見つけていなければいけません。この星を希望と言います。皆様は全員一人も残らず星を持っています。その星を見つめて下さい。苦しい時やつまずいた時にだんだんとはっきり見えてくると思います。

皆様は星を持っています。その星は別の所にあるものではなく、既に皆様の心に刻んであるものです。そしてその星を自分の物としてください。これは主の公現の祝日にイエス様からのメッセージです。自分のとこかに既にあるその星を探そうとするのが、私たちの信仰の道ではありませんか。

ありがとうございました。